

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500563		
法人名	株式会社エイチ・エス・ジー		
事業所名	グループホームみその		
所在地	埼玉県さいたま市緑区美園6-26-3		
自己評価作成日	令和3年3月19日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の今を大切にしています。個別ケアを重視し、安心・安全に生活できる環境を作っています。また職員も苦手を克服し、スキルアップを目指し、助け合い働きやすい環境を心掛けています。新しいことにどんどんチャレンジし、入居者も職員も楽しく多くの笑顔が見られるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・庭に生えているクローバーを採取し、水彩色鉛筆画を描かれたり、神経を集中してのスクラッチアートに挑戦されるなど、利用者一人ひとりの好みに合わせ、充実した時間を過ごされるよう支援に取り組みされている。 ・日々の利用者の体調に関する職員の気づかいのもと、新型コロナ、インフルエンザ、ノロ、食中毒はもちろん、怪我や種々の体調不調などの発生も無く、長く利用者の健やかな暮らしに結び付けられている。 ・運営推進会議は、コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、事業所定例会議で事業所の取り組みについての振り返りを行い、地域に開かれた事業所として質の確保とサービス向上にむけ取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションや、ミーティング時会議等に理念の確認・共有をしてサービス提供に努めている。	「・笑顔を絶やささない快適な空間をサポートします・心のこもったサービスの提供ができるよう努めます」の理念のもと、利用者・家族とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、利用者が笑顔で生き活きと日々を過ごされるよう、支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、ご家族との面会も地域との交流も控えている状況である。	コロナ禍の中、限定されるものの、ご近所のママさんがアロママッサージに見えたり、職員のお父さんが話し相手に見えたり、一緒に買い物に出かけられるなど、地域の方との交流機会を持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、思うような地域とのつながりをつくることができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルス感染症対策の為、運営推進会議の開催を見送っている。	運営推進会議は、コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、事業所定例会議で事業所の取り組みについての振り返りを行い、地域に開かれた事業所として質の確保とサービス向上にむけ取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点、問題点や相談等、市の担当者に相談し情報交換を図っている。	報告・連絡・相談時や困難事例の受け入れ時などでコミュニケーションを図られている。また、マスク・ゴム手袋、消毒用アルコールなどを頂くなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、定期的な社内研修や委員会活動を行い、周知している。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われている。その機会に、拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害が確認され、言葉での拘束を含め、行動抑制をしない介護を実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置している。職員の心理状況も把握し、不適切ケアや虐待につながらないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について理解していない部分もあるので、勉強会等の場を設けて活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族との面談をして書類を用いて説明しており、後々不明な点などが出た場合にはその都度面談や電話等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族から話を聞き、利用者・家族と話し合った上で、取り組みを決めて反映させている。反映した後の報告もしているが、現在コロナ禍で面会が出来ない為、電話等で相談を受けることが多い。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族とは面会時など来所された機会に意見・要望を聴き取られ、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングでの質疑応答や、日常業務内での声掛けで常に職員とコミュニケーションを図り、業務改善に努めている。	定例会議などで意見・提案を聴きとられるほか、発言し易い職場環境がつけられ、レクリエーション企画や食事メニューなど、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回(全職員対象)、1on1を行い、適宜必要な職員の話聞く時間を作っている。職員がどんな気持ちで業務を行っているかをできるだけ把握し、業務内容を適宜検討するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には個々にどこまで把握できているかを随時確認し、不安や心配をできるだけ解消できるようにしている。月1回の社内研修を行い、レポート提出を行い、研修内容の把握状況を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方と話した際に、どんな取り組みをしているかなどを聞いたり、地域毎の交流を聞き、業務の見直しやサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居から一定期間は、よく観察を行い、会話や行動で読み取れる不安等について職員間で共有し、誰でも同じく対応ができるように取り組んでいる。夜間も通常二時間ごとの巡視を入居一週間は一時間ごとに行い様子を観察している。入居前の実調の際家族様より、生活状況を聞き少しでも安心して生活できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時、本人・家族から困っていることや希望・要望を聞き、入所の不安を少しでも取り除けるようにしている。施設になれるまでに個人差があるので、声掛け等を行い、なるべく孤立しないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が出来ること、出来ないことを聞いたり、観察することにより、他サービスを含めた支援が出来るように提案、実行に努めている。また入居前の状況を家族や病院・施設に確認し、状況を把握するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にできることを把握し、一緒に洗濯物を畳んだり、掃除を行っている。また、会話の中でも利用者の経験談等を聴き、理解を深めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や要望を家族に伝え、共にケアの改善に取り組んでいただいている。また、月初にみその通信という近況情報を送付し、面会に中々来られない家族にも毎月報告を行っている。コロナ禍のため、現在は面会ができないため、希望者はテレビ電話を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方との外出を推奨したり、友人の方が訪問された際には、面会に応じている。現在は、コロナ禍のため面会ができないため、希望者はテレビ電話を行っている。	家族・知人等との面会は玄関先やテレビ電話に限定して行われている。また、定期報告の際には利用者の写真を掲載した通信文書を送付されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、座席や居室の位置を調整し、また、職員が間に入り会話等を行うことにより、良好な関係が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去等された方や、家族との関係を大切に、退去後も必要に応じてサービスの紹介や、アドバイスを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との信頼関係が築けるように思いや意向を聞き取り、それを実践できるように支援している。また、日常生活内の言動にも注意し、希望されているケアになるように努めている。個別ケアの取り組みを行っている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行い、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取り、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時に自宅を訪問し、本人・家族からどのように暮らしているのかを聞き取り、また、今までのサービス利用歴や要望も把握するようにしている。現在はコロナ禍の為、実調ができないため、書類での対応が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること出来ないことを日常動作やレクリエーション等の中で読み取り、適切な支援ができるようにしている。また、排泄リズムも確認し、適時誘導が行えるようにしている。集団ケアではなく、個別ケアに力を入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月フロア会議で状態の確認、把握を共有し、状態に合わせたケアの提供を心掛けている。介護計画書は定期的に見直し、作成をして本人または家族の同意を得ている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、安心・安全に過ごされるよう、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人に合ったケアを更新できるように、それまでに無かったことや変わった点については記録を詳細に残すようにしたり、フロア会議等で話し合いの場を設け、ケアの改善・実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者との何気ない会話からだったり、職員の意見を個別ケアに反映し、その時々にあったサービス提供を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での活動に参加できるように自治会の了承を得られるように話し合いを重ねている。消防署等との機関と連絡を取り、利用者の安全確保ができるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態や体調の変化などの情報を共有し、24時間安心してケアができるようにしている。また外部受診がある場合も、診療情報提供書などで本人の状態がわかるようにしている。状態の変化は家族にも伝えている。	利用者や家族の了承を得て、近くの医療機関への変更が行われた。一部診療科目によっては従来からの医療機関での受診もあるが、必要な情報提供が行われ、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調や状態の変化を月二回の訪問看護師に報告し、適切な対応が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関の医師・看護師と連絡を取り、病状の把握や対応ができるよう担当者会議や実調に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも書面で意向を伺い病状等の進行時期にあわせて、家族に看取り介護についての詳しい説明を行い、医師の意見や家族の意向を聞いた上で、職員全体に共有して支援できるように常に更新するよう努めている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、支援体制を整え、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故の際のマニュアルを作成したり、応急処置などを研修で学び、医療機関への迅速な対応ができるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。スプリンクラーや報知機の定期点検も行い、災害に備えている。	定期訓練では2階台所からの火災発生を想定し、初期消火、通報、避難誘導訓練に取り組まれている。また、昨年台風時の経験を活かし、風水害時の避難方法や対処法を検討されるなど、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経験豊富な先人の方という事を尊重し、言葉遣い等につけています。また、他の方に知られたくないこと等の個人差があることも踏まえて会話内容等でもプライバシーの確保に努めています。	トイレ誘導時には耳元で小さく声がけをされたり、着替えの際にも他の利用者に見られぬよう配慮をされるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の意向を聞き、出来る限りの対応に努めています。また、うまく返答できない方に関しては、二択に絞って聞いたり工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに焦点を当てた上で、個々のリズムに合わせた生活が営めるように個人レクにも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季に合った服装をしてもらうため、入浴時など、出来る方には準備をお願いしたり、行事時には女性の方に美容レクなどでおしゃれをもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや膳の配置に気を配り、見ても楽しめるように気をつけている。また、麻痺等の方は器を変えたりしてストレスがないよう食事ができるように努めている。食べたいものを聞き、ランチレクを行っている。	職員手作りの食事が提供され、テーブル拭きや下げ膳など、出来る利用者には手伝っていただいている。外食が出来ないので、お楽しみランチとして希望のサンドイッチ、好みのカップラーメンやおやつ作りを楽しまれるなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しっかりと栄養摂取していただけるように声掛けを行ったり、食事形態を変えている。また水分に関しては、一日の水分量を記録して、医師の指示された摂取量になるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただくよう声掛け、誘導をしている。介助が必要とされる方にはケアスポンジ等併用。腫れや出血、痛みがないか等口腔内の確認もし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせた時間での誘導を行っている。オムツ使用の方には都度陰部洗浄を行い、尿路感染症を防ぐ対応をしている。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、失敗防止やオムツ類の使用量削減に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を促したり適度な運動の参加を促したり、マッサージをしたりと便秘予防に努めているが、慢性的な便秘の方は、医療機関に相談し、服薬でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の健康状態や希望を聞き、日付の変更をしたりして対応している。また、体に負担のかからない範囲での湯船の温度調整などを行っている。	利用者の状態に合わせたシャワー浴を含め、出来る範囲で希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、日を替えたり、誘い方に工夫をされるなど、利用者の状況に合わせた支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝などの個人のペースを配慮しつつ、夜間も安眠できるように日中の睡眠時間の管理にも気をつけている。リネンの清潔保持や、居室温度・空調管理を行い安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の疑問点があったりした場合には、往診医や薬剤師に確認が取れるようにしている。また、形状等本人が飲みやすいように工夫している。いつもと変化がないかを注意深く見守る支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあること、やりたいこと、食べたいものなどをアンケートをとったり、コミュニケーションを図り、話を傾聴することによってその方の内面を知る努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍のため、外出支援ができていない。	現状、外出は自粛しているものの、庭で草花を摘んだり、外気浴を楽しまれている。また、一部であるが職員のお父さんと散歩や買い物に出かけられるなど、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要なものがあるときには家族に連絡し、購入していただいている。一部、本人が所持しているが買い物には職員が同行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とのテレビ電話を可能にしており、希望時にはテレビ電話での面会ができるようにしている。家族から届いた手紙は本人に渡したり、ご本人が見える場所に飾っていつでも見えるようにしている。また、個人で携帯電話を持っている方には、連絡方法を忘れてしまった際に使用方法の説明をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやCDの音量調節、光の強弱や温度・空調管理をしている。また、室内の飾りつけも季節感を出すため、正月飾りや、時に鉢植えなど、時期に合わせて設置している。	リビングには、風に泳ぐ真鯉に緋鯉の創作貼り絵が飾られ、季節感ある装飾となっている。また、中央部にはソファが置かれ、テレビや新聞を見たり、横になるなど、利用者が落ち着いて、ゆっくり過ごせる設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席以外にもソファをテレビ前に設置し、自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ってきていただき、なるべく以前との変わりがないよう心掛けている。また、転倒などのリスクを考慮したうえで、家具家財の配置を一緒に考えたり、家族写真や孫の書いた絵なども居室に飾っている。	馴染みの机やソファ、鏡台、プレゼントされた花や家族の写真が持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。また、定期的なリネン交換と毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置を多くして、安全に歩行できる空間にしている。居室にネームプレート、顔写真を張り分けやすいようにしている。トイレの場所がわかりやすいように目印を作って自立できるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームみその

目標達成計画

作成日: 令和 2年 4月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	一部の職員による声掛けが強い口調になる場合があり、都度注意を行っている。夜勤帯などひとり勤務の時でも適切な対応を徹底し、職員が違っていても24時間365日を通して安心して生活できる環境を維持していく。	全職員が利用者の状態把握を行い、個々に合った声掛けや対応を行い、寄り添ったケアを実施する。	認知症の周辺症状を知るための研修や、不穏時の対応方法を学ぶ機会を増やし、行動抑制等がないようにする。職員の心身の不調や仕事上の悩みなどを解決できるように面談を実施しストレスの軽減を図っていく。	6ヶ月
2	35	防災訓練は行っているが、勤務状況により全員参加が達成されていない。	全職員の参加。	防災訓練の重要性を周知し、参加の呼びかけを行う。	6ヶ月
3	2	コロナ禍のため地域との交流は事業所の中のみとなっている。地域資源の活用が十分でない。	図書館や公民館など利用者が参加できるイベントなどを把握して積極的に参加できるように計画する。	コロナ禍のため、実施時期等の決定が困難である。ニュースや行政のお知らせを参考にタイミングを図って実施できるようにする。	未定
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。